

**3. 研究の実際（詳細は別紙資料を参照）**

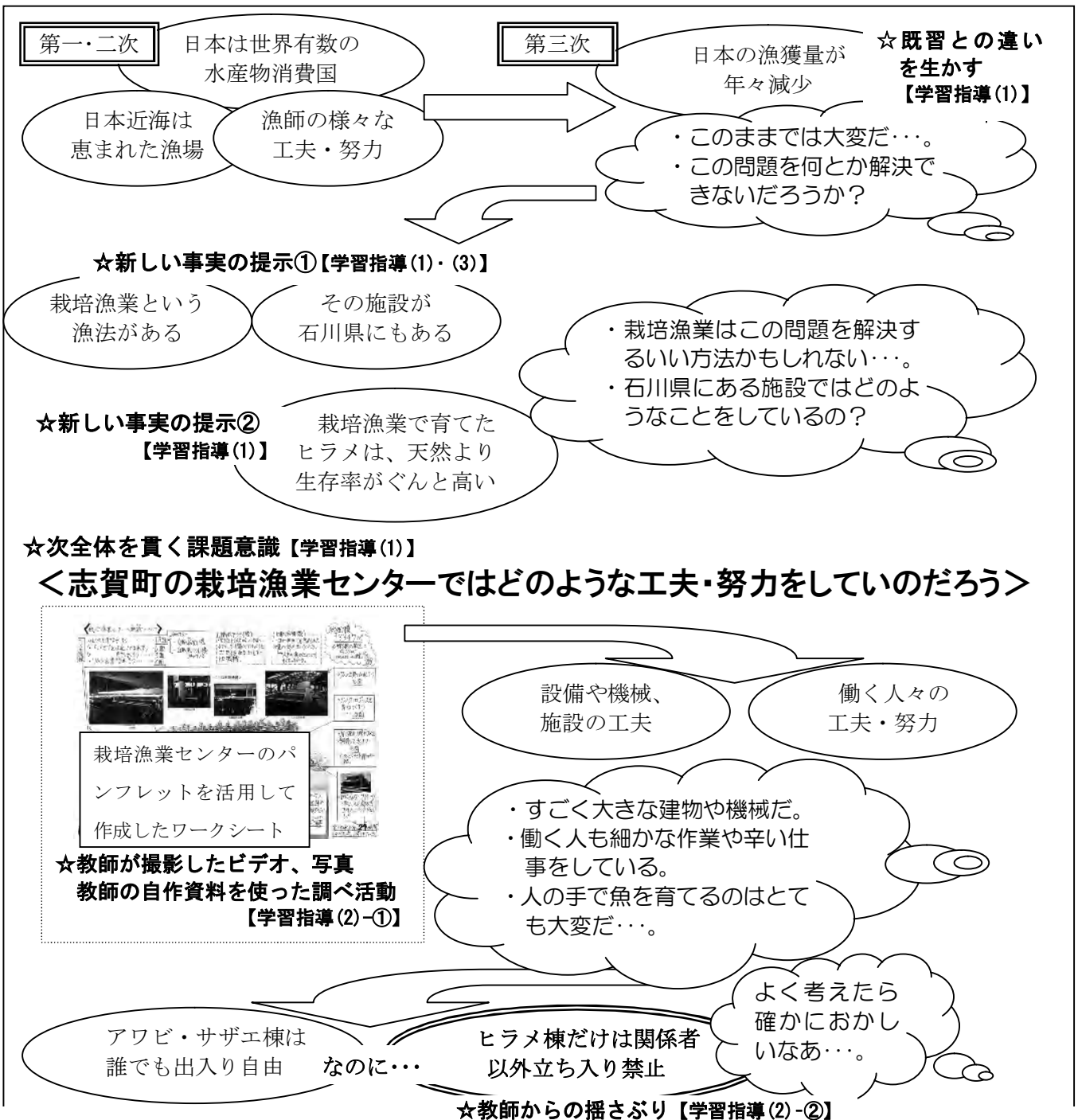
**(1) 水産業『育てて捕る 育てて守る～栽培漁業～』**

本小単元で主につかませたい見方・考え方

- ①現在、減少の一途を辿っている我が国の水産物の生産量を食い止める策として、栽培漁業が大きな役割を担っていること。
- ②私達が住むこの石川県に栽培漁業センターがあり、その施設で働く人々は、育てた水産物が水産資源を増やす一役を担って欲しいという願いを持って、日々の大変な仕事に励んでいること。

**単元計画（総時数 13 時間）**

- 第一次 日本人と水産物（2 時間）
  - ・日本人にとって水産物は身近で欠かせないものであることをとらえる。
- 第二次 とる漁業（4 時間）
  - ・日本近海は恵まれた漁場であることを知り、漁師の工夫や努力を考える。
- 第三次 育てる漁業（5 時間）
  - ・水産資源を増やすための栽培漁業の取り組み、そこで働く人々の工夫や努力を考える。
- 第四次 守る漁業（2 時間）
  - ・水産資源を増やすための様々な取り組みを知り、これからの水産業の在り方を考える。



新たな課題意識の芽生え

＜どうしてヒラメ棟だけ関係者以外立ち入り禁止なのか＞

☆既習をもとにした話し合い【学習指導(2)-①】

関係者も入る前には必ず消毒していた  
↓  
病気から防ぐため？

ヒラメはアワビやサザエより  
・体が弱いから？  
・貴重な魚だから？

勝手に入った人が  
・水槽に落ちる  
・勝手に触る  
・機械を壊すと困るから？

本当はどうなのかセンターの人に聞いてみたいな…

☆センター職員の方から事実をお聞きする【学習指導(3)】



とにかく怖いのは病気  
・たった一匹でも病気になると、感染して全滅してしまう。  
・実はヒラメの担当者以外の職員も入れない。  
・過去に大きな失敗をしたことがある。

ヒラメは育てるのが難しい魚  
・1000万個の卵から、成長し放流できるのはたった100万尾。

いつ何が起きるか分からないんだ…

・失敗してからでは遅い。  
・これまでの努力がむだになってしまうよ。

全滅してしまったらヒラメが可愛そう。

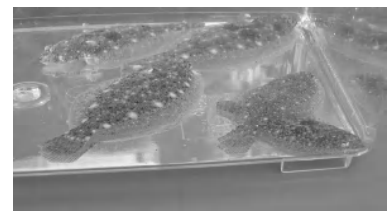
☆教師からの揺さぶり【学習指導(2)-②】

(センターの方はこんな大変な仕事をなぜしているのか)

☆子ども数人に考えを聞いた後、永田さんから仕事に対する思いをお聞きする【学習指導(3)】

育てている途中のヒラメと出会让せる

・漁師さんにたくさんのヒラメをとってもらいたい。  
・多くの人においしいヒラメをたくさん食べてもらいたい。  
・ヒラメへの愛情＝我が子を育てる気持ち。  
**一匹でも多くのヒラメを石川県の海に増やしたい！**



授業のふり返り【評価(1)】

永田さんのおかげで、「どうしてヒラメ棟だけ立ち入り禁止なのか」という疑問が解決できました。永田さん達、職員の方々が何よりヒラメを大切にされているんだなあと思いました。私達にとってとても広い場所なのに、たくさんのヒラメにとってはとても狭い場所なんだなあと思いました。

理由はやっぱり病気、ウイルスを防ぐためだと分かった。一匹の病気で全てのヒラメが死んでしまう。それを防ぐためにセンターの人が協力している。これからは、「ヒラメもサザエもアワビもその他の魚たちも、人間がサポートしながら育てられたんだな。」と感じながら、これから食べようと思った。

ヒラメは人間と同じで病気をもちやすいから、関係者以外立ち入り禁止なんだと分かった。一匹が病気になると、全部のヒラメが病気になる可能性があるから、とても悲しいことだと思った。これからは失敗のないように頑張りたい。センターに行ってみよう。